

# NEWSLETTER

THE JAPANESE SOCIETY FOR PARAPSYCHOLOGY

TAIPEI, TAIWAN, R.O.C.

NO. 31

March 1981

## スカイラブ宇宙ステーションに關する

### 予知実験の報告

1979年、スカイラブの地球落下がまぬがれが大きくなり、現代の科学ではその予知が不可能であることから、世界はそれがいつ、どこに落下するかの話題でもちきりになった。このとき Mind Science Foundation の William Brand は世界各地の人々に手紙を送り、落下の時の所を予知する実験に参加してくれるように要望した。本学会にもその要請がなされ、その詳細が大谷氏によりニュースレター NO. 11 で紹介され、22人の人々が参加した。また、European Journal of Parapsychology (1980年5月号) の Brand は "project Chicken Little: a precognition experiment involving the Skylab space station" において、その結果について報告した。以下はそのあらましである。

始めは5月1日をメッキリとし、それまでに200人が解答をよせた。その後も解答が寄せられとくにブライル版だけでも273通にも達し、それ等と無視するわけがいかず、結局スカイラブが実際に落下した前日の7月10日までの解答をとることにした。この時までの解答総数は512、その内訳は超心理学者35人、訓練されたボランティア、すなわち、サイ機能促進させるためのプログラム (Silva Mind Control) をおえた人々27人、(9人は聖職者)。以前に Mind Science Foundation experiments でいくれも成績を収め、San Antonio 在中の25人、サイに特別の関心を持つ93人(この中に我々学会員が含まれている)。知人達からこの実験のことに知り参加した連絡されたいなりの2人であった。ところで、5月1日以後 NASA と NORAD は最も可能性のある落下時間帯の予知をし始めたので、時間に関する予知の解答はこの日以後のものは統計から除かれ、200となった。落下地帯および時刻の正確さはそれがいかに予知の場所と落下地帯との距離、予知の時間と

落下日の間隔により評価された。この計算には Texas Instruments Programmable 59 Calculator にもとづく特殊なプログラムが用いられた。落下地帯に關しての解答の統計が度数折れ線グラフで示され、そのモードは5月1日までのデータによると9%の18例で、東経60°から75°の間9部分である。地球全体が経度で15°ごとに分けられ、各部分に落下する確率が等しいとすると、これは期待値の8.33例(4.17例)と対照的である。この部分の度数に適用した Binomial test は両側検定で  $Z = 3.24$ ,  $p = 0.0012$  であるから、もし予知能力があるとするならばこの部分内のどこかに落ちることだろう。また、7月10日までにさらに312の回答が追加され、状況は一変する。今度はモードは東経0°から15°の範囲で512例中、8.59例の44例が入り、前と同じ検定で、 $Z = 4.90$ ,  $p = 9.6 \times 10^{-7}$  であった。落下時間については予知は1979年2月から1981年11月までいろいろあり、月のモードは1979年8月で10.26例の20例、また1979年10月は平均値、中央値を舍んで11。このことからスカイラブは1979年8月または10月に落下することが予知された。しかし、実際にはスカイラブは1979年7月11日、オーストラリア Kalgoorlie 近く(東経120°と135°の間)に落下したのである。この区域に対する予知は全例の2.92例15例で、それと偶然期待値の21.33例との差は有意ではない。(  $Z = -1.29$ ,  $p = 0.197$ , 両側検定)。また、先の5つの各グループによる落下地帯と予知地帯との平均距離は地図上で、それがいかに87.03, 85.86, 86.36, 79.57, 81.62 (mm) であり、グループ間には有意な差は見られない。(  $F = 0.82$ ,  $df = 4/507$ ,  $F = n.s.$ ) また、時間に関する差の値はそれがいかに138.77, 137.39, 101.29, 181.36, 216.41 (日数) で有意ではない。被験者が地図の端の方を避ける傾向、PK効果、衝動による被害のなさ、等々がこのような結果を生じたい原因であろうと Brand はいっている。

学会ニュース

第151回月例研究会

1981年3月15日(日) 10.00~16.00

場所 午前: 世田谷区立福祉会館  
午後: 松田守氏宅。出席者18名。  
報告 心理療法中に起った偶発的PK現象について

笠原敏雄

お知らせ

第152回月例研究会

下記要領を4月例会に補償致します。

日時 1981年4月19日(日) 10.00~16.00  
場所 日本体育大学 東京都世田谷区深沢7-1  
Tel. 03-703-0441

(渋谷駅より等々力行きバス、深沢交番前下車、十字路右折、日体大へ110m浴い進み面入る。または恵比寿駅より祖師谷大蔵行きバス、日体大前下車)

紹介 1. The theory of Synchronicity  
2. The meaning of 'Paranormal',  
Stephen E. Braude. 紹介者 金沢元基

日本超心理学会と中華民国超心理<sup>学</sup>研究会  
の共同研究について

本学会はすでに中華民国超心理学研究会と交渉も  
ち、東京・台北ESP遠距離実験の実施や情報交換な  
どを行なって来ましたが、この在心東洋における超心

理学研究の国際協力の一環として、共同研究を積極的  
に行なっていくことになりました。その第一回目とし  
て5月3日から5日まで台北市で開催される年次大会に  
本学会から大谷宗司氏、笠原敏雄氏が出席され、本学  
会の最近の研究状況を講演し、当地の会員連と実験を  
行おうことになりました。詳細については次号でお知  
らせ致します。

Abstract (続)

Research in Parapsychology 1979  
Abstracts and Papers from the  
22nd Annual Convention of the  
P.A., 1979

- Synchronicity and Psi: Causal  
Versus Acausal Paradigms  
Spontaneous Waking-State Psi as  
Interhemispheric Verbal Communication  
by B Honegger  
Synchronicity, Causality and Con-  
sciousness and Creator. by A. Vaughan  
Transcultural Uniformity of Polter-  
geist Patterns as Suggestive of an  
"Archetypal" Arrangement. by H  
Bender. Synchronicity, Psychodynamics  
and Psi. by Eisenbud  
The Synchronicity Confusion. by  
S.E. Braude

Roundtables

- In Memoriam: A Tribute to Gard-  
ner Murphy (1895-1979)  
Gardner Murphy. by G. Schmeidler  
Gardner Murphy's Contribution to  
Parapsychology. by M. Ullman.  
Gardner Murphy and the Astrology  
Probe. by S. Krippner.  
The Interpersonal Field. by W.G.  
Roll.